謙天皇の御宇、僧道鏡、寵を得て内廷に威權を肆にするの時、實に和氣清麿、大隅に流さるゝの前一年なりき。

而して唐朝に於ては、祿山思明の亂、僅に鎭まり、河北降りてより數年、李光弼既に卒し、兵部尚書顏眞卿は權臣元載の爲に讒せられて去り、宦官魚朝恩漸く事を見るの時なりしなり。郭子儀は節度使として外にあり、李泌は山に隱れぬ。常袁等内にありと雖ども朝恩等の爲にさへぎられて、翼をのばすこと能はず。而も息こなき天下の勢は澎湃として將に其の第二波を擧げんとす。彼、この時に生る。彼が將來取るべき運命の行路は知るべきのみ。

文苑

日本の山

稼堂陳人

世に山といふ山は多かれど、その形のいとも〳〵すぐれたるは富士の山にやあらむ。いづこより見ても同じ姿にて八面玲瓏として表もなければ裏もなし。海づらよりつきたちたる。その高さ一萬二千尺ありて天つみそらに聳え出でゝ照る日もかくろひ行く雲もはゞかり時しくに雪をいただき常とはに煙をはき明ぼのゝ空にはひ夕やきの色にかゞやける。そのうつろひのえもいはぬたゞずまひハ山部の赤人の詠を初めて世々の集にいひ盡せる所にして外つ國人のうちながめても先づ魂きゆるばかりになむ覺ゆるハこの山にやあるらし。山すでにかゝれば人の心

も。清く。直く。高く。秀づる。さながら。この山のごとなれば。この山の姿や。即てこの皇國の人のいきうつしと云も。いはんかし。これは。只この皇國にのみの山なれば。日本の山。と名を負せんも。そら言には。あらずなむ。

この文は余が五靈略説といふ文の一節を抜出でたるなりことしの勅題に因みてこゝにろゝぐ

寄山祝

助教授　黒本植

おのれ、ことしの勅題を、よみ奉らん、とおもひけるほとに、ふとかご島にものして、むつきの二日の日、きりしま山のほとりを過ぐ。ことしのけふしも、この名山をみることよ、と神代をかけて、今の大御代をおもひて、村山の梢を隔て、仰ぎみれば、いよ〳〵高く、ます〳〵尊さく、かんと奉りければ、よめる。

神代よりかけすくつれぬ高千穂のたかねなからの君か御代ろな

杉山富槌

仝

雲凌くふしの高峰の姿にそ動かぬ御代の云るしとは見る

下山陸治

仝

とこしへに動かぬ不二の高根こそ我大君の國のミはしら

本田弘

仝

ふたつなき不二の高根の姿こそ我すめくにの姿なるらめ

中内義一

仝

動きなき不二の高根は幾千代もかはらぬ御代のためしなりけり